ISSN 0918－1946

調 査 年 報 31

平 成 30 年 度

公益財団法人　北海道埋蔵文化財センター

調 査 年 報 31

平 成 30 年 度

公益財団法人　北海道埋蔵文化財センター

幸連５遺跡　調査区全景

幸連５遺跡　盛土・石刀出土状況

目　次

口絵
目次
北海道史略年表
平成30年度の調査
1　調査の概要 …… 1
2　整理作業・報告書作成の概要 …… 2
3　調査遺跡
木古内町幸連遺跡 …… 4
木古内町幸連５遺跡 …… 8
白老町ポロト３遺跡 …… 12
苫小牧市高丘８遺跡 …… 14
長沼町12区Ｃ遺跡 …… 18
厚真町鯉沼２遺跡 …… 20
浦河町向別遺跡 …… 22
浦河町栄丘遺跡 …… 24
浦河町昌平町遺跡 …… 24
浦河町常盤町遺跡 …… 25
根室市別当賀一番沢川遺跡 …… 28
根室市トーサムポロ湖周辺竪穴群 …… 30
斜里町カモイベツ遺跡 …… 32
4　協力活動及び研修 …… 38
5　平成30年度刊行報告書 …… 40
6　組織・機構 …… 41
7　職員 …… 42

北海道史略年表

本州の時代区分		年代（西暦）	北海道の時代区分		平成30年度調査遺跡の主な時期
明治～平成		A. D. 1900	（近 代・現 代）		
江戸時代			近世	アイヌ文化期	カモイベツ トーサムポロ
室町時代			中世		
鎌倉時代		A. D. 1200			
平安時代			擦文文化期		向別
		A. D. 800	オホーツク文化期		トーサムポロ　　カモイベツ
奈良時代					
古墳時代					カモイベツ
		A. D. 300	続縄文時代		
弥生時代					
縄文時代	晩　期	B. C. 300	縄文時代	晩　期	別当賀一番沢川
	後　期	B. C. 1000		後　期	幸連５　　別当賀一番沢川
	中　期	B. C. 2000		中　期	12区C　昌平町　別当賀一番沢川　ポロト３ 幸連５
	前　期	B. C. 3000		前　期	幸連　　幸連５ 高丘８
	早　期	B. C. 4000		早　期	鯉沼２　向別　常盤町 トーサムポロ
	草創期	B. C. 7000		草創期	
旧石器時代		B. C. 13000 B. C. 20000 B. C. 30000	旧石器時代		

平成30年度の調査

1　調査の概要

発掘調査は、道内２市５町に所在する13遺跡で実施した。このうち３遺跡は以前からの継続調査であり、２遺跡は過去にも調査を実施している。発掘調査を工事原因別に見ると、国土交通省北海道開発局が実施する道路整備事業（札幌開発建設部・函館開発建設部・釧路開発建設部・網走開発建設部）が１市４町６遺跡、公園整備事業（札幌開発建設部）が１町１遺跡、土地改良事業（室蘭開発建設部）が１町１遺跡である。北海道が実施する道路整備事業（胆振総合振興局・釧路総合振興局）が３市町７遺跡である。

木古内町幸連５遺跡は今年度2687㎡の調査計画であったが、下述のように高密度の重複関係が認められる多数の遺構が検出され、さらに多量の遺物が出土したため、1065㎡を終了し、来年度も継続して調査することとなった。

以下、発掘調査成果を時期順に略述する。各遺跡の特徴的な事項を示すこととし、時期の重複する遺構は始まりの時期あるいは主体とみられる時期を目安に記述する。なお、遺構などは時期や性格の確定に及んでいないものもある。

縄文時代　早期

苫小牧市高丘８遺跡では、第Ⅲ黒色土層から炭化物集中・柱穴等が検出され、厚真町鯉沼遺跡では早期後半の遺物が、浦河町向別遺跡、常盤町遺跡は早期の落とし穴、石錘等の礫石器類が出土している。

縄文時代　前期

苫小牧市高丘８遺跡では、盛土遺構・落とし穴群が検出され、土器は静内中野式が多く出土している。木古内町幸連遺跡では、住居跡・盛土遺構・フラスコ状土坑が検出され、土器は円筒下層式、石器は扁平打製石器等が多く出土している。木古内町幸連５遺跡では、前期後半の斜面盛土遺構・多数の密集したフラスコ状土坑が検出されている。幸連遺跡・幸連５遺跡は段丘上を削平し、その土を使って盛土遺構を形成したと考えられ、地形の改変はこのころから始まっている。

縄文時代　中期

前出幸連５遺跡では、斜面盛土遺構、多数の密集したフラスコ状土坑、削平された凹地・それを挟む２条の直線的盛土遺構が検出されている。また、中期中葉～後葉には多数の密集した住居跡が検出され、このような状況は前期後半から続いている。なお、盛土出土の石刀もこの頃の遺物である（口絵１）。白老町ポロト３遺跡は海岸砂丘の内海側（現ポロト湖）に形成された遺跡で中期後半の土器、海浜礫で構成される礫集中、石核を含む剥片・砕片集中が検出されている。

その他当該期の遺跡としては、長沼町12区Ｃ遺跡、浦河町昌平遺跡、根室市別当賀一番沢川遺跡が調査された。

縄文時代　後期

前出幸連５遺跡では中期末～後期初頭の住居跡、削平された凹地、海に向かう２条の直線的盛土遺構が検出されている。その他当該期の遺跡としては、根室市別当賀一番沢川遺跡が調査された。

続縄文時代

斜里町カモイベツ遺跡では砂丘海側肩部に、後北C_2・Ｄ式期の住居・焼土・剥片集中が検出され、過去に斜里町が調査した地点では字津内Ⅱ・後北C_2・Ｄ式期の竪穴住居・土坑墓が検出されており、砂丘

頂部から肩部は頻繁に利用されていたと推定される。

擦文文化期・オホーツク文化期

浦河町向別遺跡からは擦文期の深鉢・回転糸切底の坏・須恵器甕片が出土した。斜里町カモイベツ遺跡では摩周b5降下軽石層下位からオホーツク刻文期の小型竪穴・集石が検出されている。

アイヌ文化期

根室市トーサムポロ湖周辺竪穴群では、樽前a降下軽石層と駒ケ岳C_2降下軽石層に挟まれた貝塚、樽前a降下軽石層上位に形成された貝塚が検出された。両貝塚からは鉄製品・骨角器が出土した。斜里町カモイベツ遺跡では樽前a降下軽石層上位から灰層を伴う地点貝塚・集石が検出された。貝塚は魚骨を主体として海獣骨が含まれ、鉄製品・骨角器も出土した。

2　整理作業・報告書作成の概要

整理作業のみを行った遺跡、発掘調査と整理作業を行った遺跡があり、そのうち、報告書を刊行する遺跡、継続調査及び継続整理を行った遺跡がある。以下、事業ごとに記す。

国土交通省北海道開発局事業

- 道央圏連絡道路関係では、長沼町12区C遺跡の報告書を刊行する。
- 公園整備関係では、白老町ポロト3遺跡の報告書を刊行する。
- 函館一江差道関係では、木古内町札苅5遺跡の報告書を刊行する。幸連4遺跡・札苅7遺跡・札苅8遺跡は整理作業中であり、幸連遺跡・幸連5遺跡は継続調査及び整理作業を行う。
- 厚幌導水路関係では、鯉沼2遺跡は発掘調査と報告書刊行を行い、厚幌2遺跡・オコッコ1遺跡は報告書を刊行する。
- 根室地区の道路関係事業では、温根沼2遺跡・別当賀一番沢川遺跡の報告書を刊行する。
- 国道334号斜里町カモイベツ遺跡は整理作業を行う。

北海道事業

- 胆振総合振興局の道路事業では、高丘8遺跡、向別遺跡、栄丘遺跡、昌平町遺跡、常盤町遺跡が整理作業を行う。
- 胆振総合振興局の防災安全交付事業では、西関内3遺跡の報告書を刊行する。
- 釧路総合振興局の道路事業では、トーサムポロ湖周辺竪穴群が整理作業を行う。

平成30年度　発掘調査および掲載遺跡位置図

平成30年度　事業別発掘調査・整理作業遺跡一覧

事業委託者		原因工事	遺跡名	所在地	調査面積（㎡）	摘要
国土交通省北海道開発局	札幌開発建設部	道央圏連絡道路長沼町幌栗道路工事	12区C	長沼町	1,400	新規
		国立民族共生公園整備事業	ポロト3	白老町	590	平成29年度にも実施
	函館開発建設部	高規格幹線道路函館江差自動車道建設工事	幸連4	木古内町	整理作業	平成28年度から継続
			札苅5	木古内町	整理作業	平成23年度から継続
			札苅7	木古内町	整理作業	平成25年度から継続
			札苅8	木古内町	整理作業	平成26年度にも実施
			幸連5	木古内町	2,687	平成28年度から継続、1065㎡完了
			幸連	木古内町	877	平成29年度から継続
	室蘭開発建設部	勇払東部（二期）地区厚幌堀水路工事	オコッコ1	厚真町	整理作業	平成27年度から継続
			厚幌2	厚真町	整理作業	平成28年度から継続
			鯉沼2	厚真町	1,971	新規
	釧路開発建設部	根室防雪事業改良等工事	別当賀一番沢川	根室市	整理作業	平成27年度から継続
					195	
		一般国道45号根室市温根沼改良工事	温根沼2	根室市	整理作業	平成29年度から継続
	網走開発建設部	一般国道334号斜里町峰浜中央帯設置工事	カモイベツ	斜里町	1,695	平成29年度から継続
北海道	胆振総合振興局	苫之町伊達線防雪・安全交付金	西開内3	伊達市	整理作業	平成29年度から継続
		苫小牧中央インター線道路改良工事	高丘8	苫小牧市	6,417	新規
		上向別浦河（停）線道路改築工事	向別	浦河町	2,400	新規
			栄丘		600	新規
			昌平町		3,179	新規
			常盤町		18,121	新規
	釧路総合振興局	根室半島線交付金工事	トーサムポロ湖周辺竪穴群	根室市	395	平成21～23・26年度にも実施
合計					40,727㎡	

3　調査遺跡

木古内町（きこないちょう）　幸連（こうれん）遺跡（B-05-18）

事　業　名：高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財調査（幸連５遺跡外）

委　託　者：国土交通省北海道開発局函館開発建設部

所　在　地：上磯郡木古内町字幸連116-2

調査面積：877㎡

調査期間：平成30年９月10日～10月26日

調　査　員：鎌田　望、愛場和人

調査の概要

遺跡は道南いさりび鉄道札苅駅の北東約1.3kmに位置し、海岸線から約300ｍ入ったボンクレ川右岸の標高24～29ｍの海岸段丘上に立地する。調査は平成29年度に続き２か年目で、平成29年度は函館江差自動車道の本線部分2,896㎡を調査し、竪穴住居跡５軒、土坑97基、小土坑170基、盛土遺構２か所等を検出し、約35万点の遺物が出土した。今年度は本線部分を挟んで北側と南側に分かれたボンクレ川側の補償道路部分877㎡を調査した。

基本層序はⅠ層：表土、Ⅱ層：黒褐色土、Ⅲ層：黒褐色土、Ⅳ層：漸移層（暗褐色～褐色土）、Ⅴ層：黄褐色ロームである。

遺構と遺物

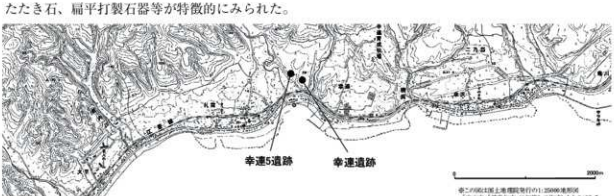
今年度調査した遺構は竪穴住居跡５軒、土坑７基、焼土１か所、盛土遺構２か所である。時期はいずれも縄文時代前期後半と考えられる。

竪穴住居跡は細長い調査区形状からH-６を除き、全体を調査できなかったが、平面形はH-９が隅丸長方形で、それ以外は円形もしくは楕円形と推測される。またすべての住居跡の覆土には盛土と考えられる褐色土が厚く堆積していた。H-９は長径が８ｍを超えるもので、床面にはベンチ構造が巡り、出土遺物から円筒土器下層ｄ式期と考えられる。

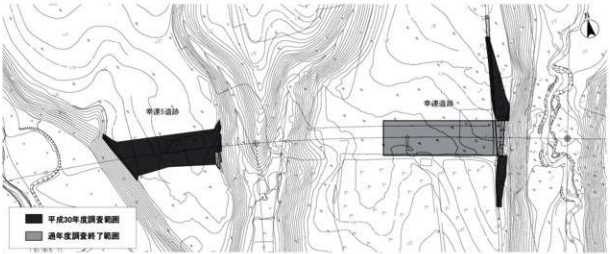
土坑はすべて断面がフラスコ状を呈するものである。大きさは深さ約40㎝・底径約１ｍの小型のものから、深さ約２ｍ・底径約２ｍの大型のものまで多様である。覆土中からは遺物が多く出土し、P-100では大型礫、P-102では複数個体の円筒土器下層ｄ式やつまみ付きナイフ、磨製石斧、礫石器などがみられた。また土坑の底面には中央に小土坑や溝状の掘り込みがみられるものがある。

盛土遺構はボンクレ川側にあり、H-６～８・10を埋めている。盛土Ｃでは焼土１か所、円筒土器下層ｄ式期の土器集中６か所、剥片集中３か所が確認され、盛土中からは多量の遺物が出土した。層厚は最も厚い部分で60㎝を超える。

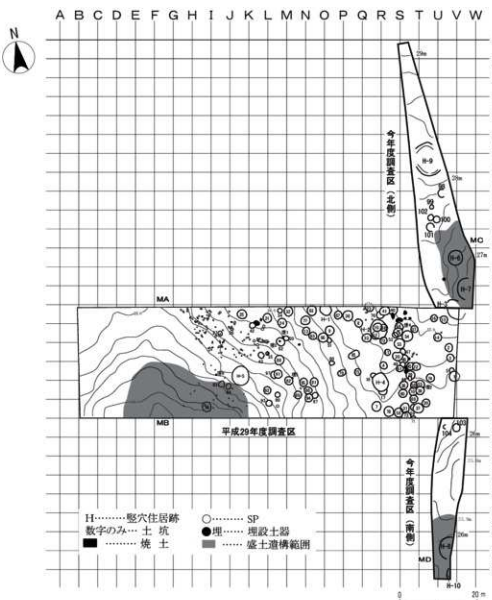
遺物は主に遺構から約37,000点出土した。縄文時代前期の円筒土器下層式土器、石鏃、スクレイパー、たたき石、扁平打製石器等が特徴的にみられた。



遺跡位置図

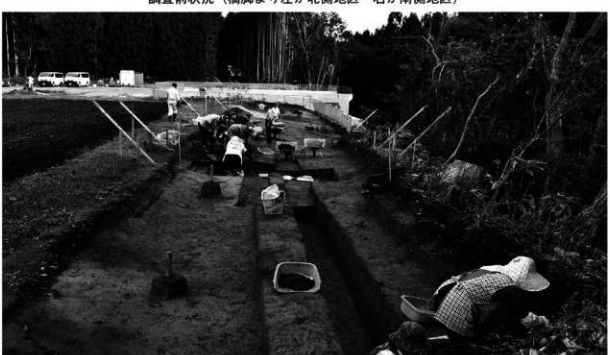


調査範囲と周辺の地形



遺構位置図

調査前状況（橋脚より左が北側地区・右が南側地区）



南側地区調査状況

ＭＣ土層断面

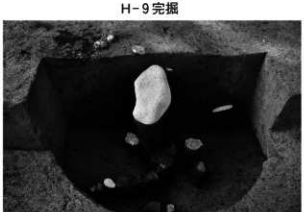
ＭＣ土器出土状況

H－6 完掘

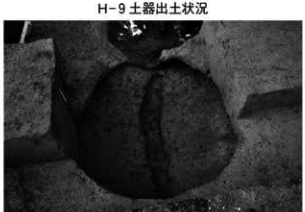
H－8 完掘

H－9 完掘

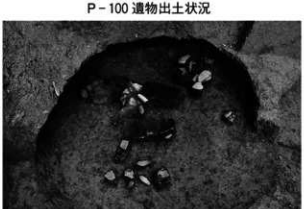
H－9 土器出土状況



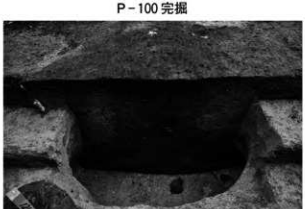
P－100 遺物出土状況



P－100 完掘



P－102 遺物出土状況



P－98 土層断面

木古内町（きこないちょう）　幸連（こうれん）5遺跡（B-05-62）

事　業　名：高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財調査（幸連5遺跡外）
委　託　者：国土交通省北海道開発局函館開発建設部
所　在　地：上磯郡木古内町字幸連206、209、215、216番地
調査面積：2,687㎡
調査期間：平成30年5月9日～10月26日
調　査　員：土肥研晶、冨永勝也、大泰司統、福井淳一、吉田裕吏洋、酒井秀治

調査の概要

遺跡は、道南いさりび鉄道の札苅駅から北東に約1.2㎞に位置し、海岸線から350mほど入った幸連川下流左岸、標高約20～25mの舌状の海岸段丘上に立地する。

平成28年度に東側斜面61㎡の調査を行い、縄文時代前期～中期の盛土遺構が検出され、その厚さは1.8mに達する場合もあり、さらに谷底まで続くことがわかった。遺物は、土器や石器類が68,531点出土した。縄文時代前期後半の円筒土器下層式～中期前半の円筒土器上層式が多量に出土し、石器では石鏃やスクレイパー等の剥片石器、たたき石や扁平打製石器等の礫石器が出土している。平成29年度及び今年度は、残りの東側斜面および段丘上の2,687㎡を対象に調査を実施したが、予想を上回る数の遺構・遺物が検出され、平成30年度終了時点で1,065㎡調査完了、残る1,622㎡は5割ほど調査中である。濃密に重複する遺構は、調査範囲外の北側や南側にも同様の状況で広がっていると考えられる。

遺構と遺物

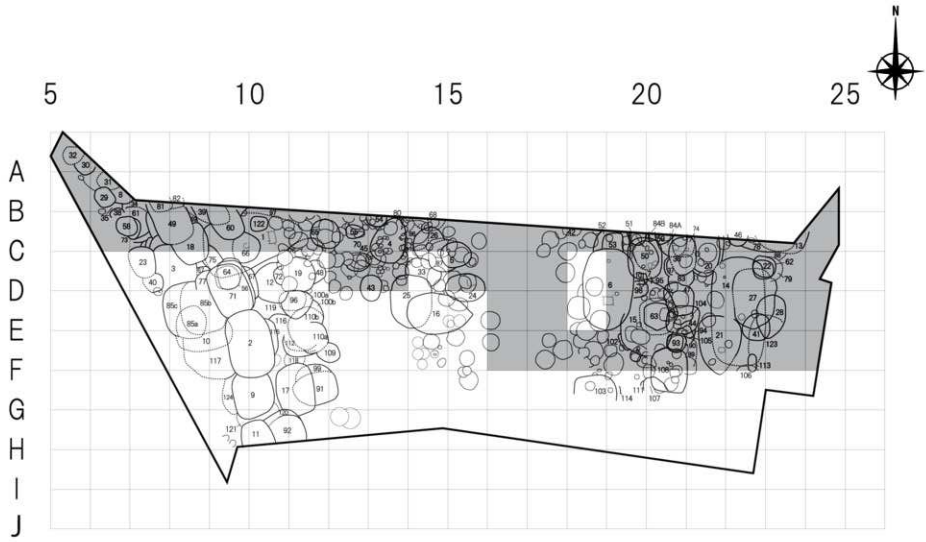
今年度までの調査で番号が付けられた遺構は、竪穴住居跡124軒、土坑280基、焼土45か所である。そのほかに3か所の盛土遺構が検出されている。

盛土遺構は、東側斜面で谷底まで続く縄文時代前期後半～中期の遺物が含まれるものと、段丘上で縄文時代中期後半～後期前葉の遺物が含まれ、海に向かって南北に延びる2列がある。2列の盛土遺構の間は削平された。巾最大12mの遺構の途絶えた空間がある。盛土遺構とその外側には竪穴住居跡や土坑が濃密に重複している。盛土遺構からは多量の土器や石器類が層をなして出土し、つぶれた状態の土器、小礫の集石、剥片集中などが多く検出されている。

竪穴住居跡は、縄文時代中期中葉から後葉のものが幾重にも重なって検出され、それより下からは中期前半や前期後半の住居跡を確認している。中期後半の住居跡の平面形は円形や卵形で、大きなものでは長径が10m以上、長方形の石囲炉のある住居跡も数軒見つかっている。

土坑は、フラスコ状ピットや多量の小礫の入った土坑等を検出している。フラスコ状ピットは、底面径が2.5～3.0mの大型のものもみられる。

遺物は現在約140万点が出土している。土器は主に縄文時代前期後半（円筒土器下層式）、中期（円筒上層式、サイベ沢Ⅶ式、榎林式、大安在B式、ノダップⅡ式、煉瓦台式）、後期前葉（天祐寺式、涌元式）が出土している。石器は、石鏃・石錐・スクレイパー等の剥片石器、たたき石・すり石・扁平打製石器等の礫石器が出土している。剥片石器はほとんどが頁岩を、礫石器では安山岩・砂岩・泥岩・凝灰岩といった石材を多く利用している。このほかにミニチュア土器・有孔土製円板等の土製品、異形石器・三脚石器・石冠・石棒・石刀・青竜刀形石器・三角形石製品・玦状耳飾り等の石製品が出土している。中でも昨年度出土した人の顔が描かれた三角形の石製品は希少な発見といえる。遺物点数は今後の調査で更に増加する見込みである。



数字のみ…住居址

調査終了範囲

遺構位置図

幸連・幸連５遺跡　遠景

H－9　貝集中検出状況

P－129　調査状況

H－63　調査状況

白老町（しらおいちょう） ポロト3遺跡（J-10-45）

事 業 名：国立民族共生公園整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
委 託 者：国土交通省北海道開発局札幌開発建設部
所 在 地：白老郡白老町若草町２丁目
調査面積：590㎡
調査期間：平成30年５月９日～平成30年６月27日
調 査 員：菊池慈人、愛場和人、山中文雄

調査の概要

遺跡は、ポロト湖南岸のウツナイ川が流出する地点から南南西へ約200m、有珠ｂ降下軽石等で被覆された砂丘に立地する。砂丘は現在の海岸線から約800m内陸に、海岸線と平行して北東－南西方向に細長く伸びている。調査前の状況は緑地で、地表面の標高は約６ｍである。

なお、昨年度は440㎡を発掘調査し、土器片集中２か所（PB1･2）、礫集中１か所（SB1）を検出した。出土遺物の大部分は縄文時代中期のもので、土器約600点、石器等約200点が得られた。

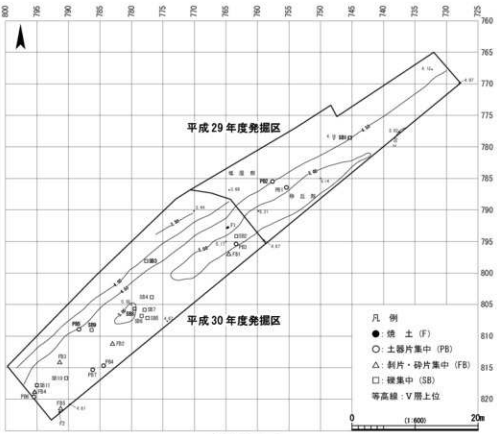
層序は、Ⅰ層：現代の造成土、Ⅱ層：有珠ｂ降下軽石（1663年降下）、Ⅲ層：灰黄褐色砂壌土、Ⅳ層上位：黒色壌土、Ⅳ層下位：黒褐色砂壌土、Ⅴ層：暗褐色砂で、遺物は主にⅣ層下位から出土した。なお、低湿部には泥炭土が堆積しており、厚い部分で約80cmを測る。

遺構と遺物

遺構はⅣ層下位で焼土１か所（F1）、土器片集中４か所（PB3～6）、黒曜石の剥片・砕片集中５か所（FB1～5）、礫集中10か所（SB2～11）を検出した。同層の出土遺物から推測すると、いずれも縄文時代中期後半のものと判断される。土器片集中からは、萩ヶ岡３式、柏木川式もしくは大安在Ｂ式等が出土した。剥片・砕片集中のうち、FB2・3からは石核、両面加工石器や石槍が得られており、この場所での石器製作をうかがわせる。礫集中は、同程度の大きさの礫が数点～数十点まとまっていたもので、扁平で円形または楕円形をした海浜礫（大きさ５～10cm程度）や、拳よりやや小さい転礫が目に付く。なお、Ⅳ層上位で焼土１か所（F2）を検出したが、周囲で遺物が出土しておらず、時期の特定には至っていない。

遺物は土器約1,000点、石器等約2,000点で、大部分がⅣ層下位から出土した。土器の大部分は縄文時代中期半ば～後半のもので、萩ヶ岡２式・３式等が見られる。石器等には、石鏃、石槍、削器、磨製石斧、たたき石、すり石、北海道式石冠、台石、剥片、砕片、石核、礫等があり、定型的な石器では石槍が比較的多い。

遺跡位置図



遺構位置図

調査状況

焼土（F1）

剥片・砕片集中（FB3）

礫集中（SB9）

苫小牧市　高丘8遺跡（J-02-286）

事 業 名：苫小牧中央インター線（仮称）道路改築工事用地内埋蔵文化財調査
委 託 者：北海道胆振総合振興局
所 在 地：苫小牧市字高丘41-1、41-18
調査面積：6,417㎡［A地区：4,272㎡、B地区：2,145㎡］
調査期間：平成30年6月5日～11月20日
調 査 員：皆川洋一、藤井　浩、鈴木宏行、山中文雄

調査の概要

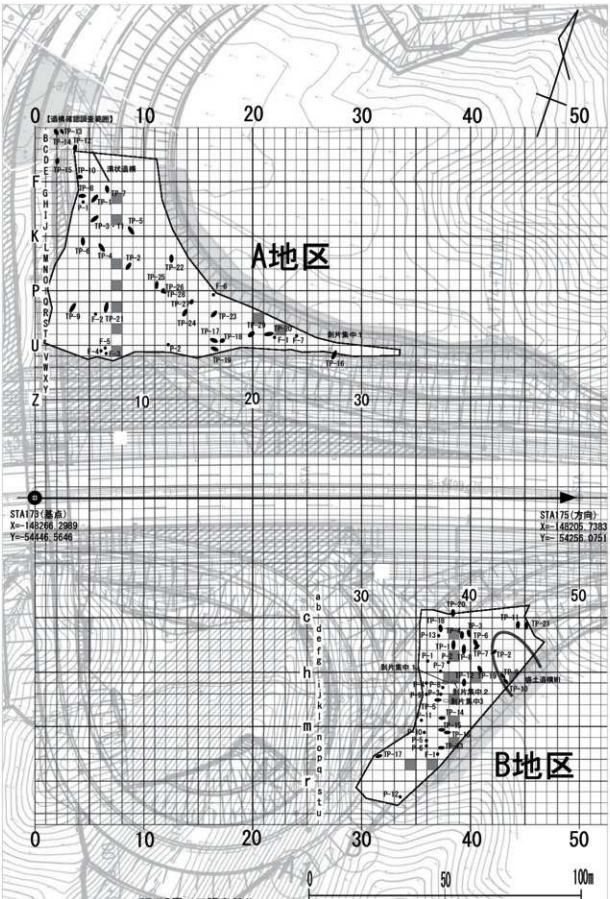
遺跡は苫小牧市の中央部、JR苫小牧駅から北約3kmに位置し、標高約50mの更新世段丘面上に立地する。高速道路を挟んで北（A）と南（B）側の2か所の調査区があり、その間は最短で約100mである。基本土層は、表土から樽前a，b降下軽石層、第Ⅰ黒色土層（ⅠB）、樽前c降下軽石層、第Ⅱ黒色土層（ⅡB）、樽前d降下軽石・スコリア層（Ta-d）、第Ⅲ黒色土層（ⅢB）、黄褐色ローム質土層（En-aローム）の順で、表土からⅡB層まで約4mの層厚である。調査した遺物包含層はⅡB層で、一部ⅢB層からEn-aローム上部までを調査した。

遺構と遺物

遺構は縄文時代の盛土遺構1か所、土坑17基、Tピット50基、焼土8か所、溝状遺構1か所、剥片集中3か所である。盛土遺構はB地区の南側で確認され、時期は縄文前期前半と考えられる。土坑は両地区で確認され、B地区では覆土上面に遺物を伴うものが多い。Tピットは最も数が多く、両地区で確認された（A：29基、B：21基）。焼土はA地区に多く見られた（A：7か所、B：1か所）。溝状遺構はA地区北側で、剥片集中はB地区中央部分で確認した。また、ⅢB層の調査ではB地区で炭化物の集中、両地区で柱穴状の落ち込みを確認した。

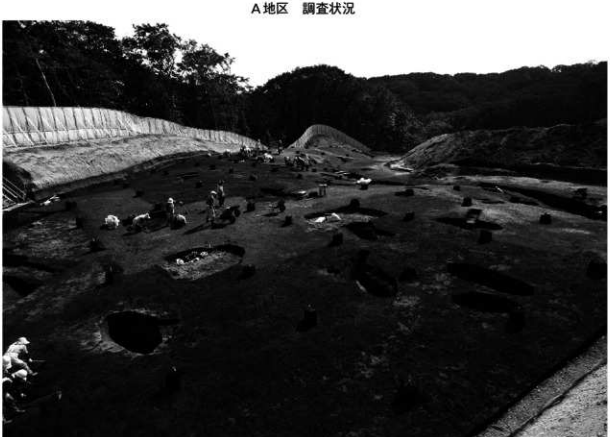
遺物は約30,000点出土した（A:10,000点、B:20,000点）。この内土器は約5,000点で（A:2,000点、B:3,000点）、縄文時代前期（静内中野式期等）が主で、中・後期のものがみられる。石器等は約25,000点（A:10,000点、B:15,000点）であるが、そのほとんどが黒曜石製の剥片である。石器は石鏃、石槍、スクレイパー、石錐、つまみ付きナイフ、石斧、たたき石、すり石等が出土した。

遺跡位置図
（国土地理院地形図を基にカシミール3D を用いて作成した。図の上が北を示す）


A地区
B地区
STA179(基点)
X=-148266.2989
Y=-54446.5646
STA175(方向)
X=-148205.7383
Y=-54256.0751
■Ⅲ B層以下調査部分
0
10
20
30
40
50
100m

調査区及び遺構位置図

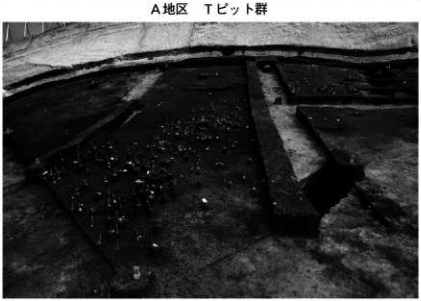
A地区　調査状況



B地区　調査状況（Tピット群）

A地区　Tピット群

A地区　溝状遺構



B地区　盛土遺構

B地区　土坑P－4

B地区　剝片集中1

B地区　Ⅲ層出土炭化物

長沼町（ながぬまちょう） 12区（く）C遺跡（E-17-41）

事 業 名：道央圏連絡道路長沼南幌道路工事用地内埋蔵文化財発掘調査

委 託 者：国土交通省北海道開発局札幌開発建設部

所 在 地：夕張郡長沼町241-2

調査面積：1,400㎡

調査期間：平成30年9月19日～10月18日

調 査 員：芝田直人、山中文雄

遺跡の概要

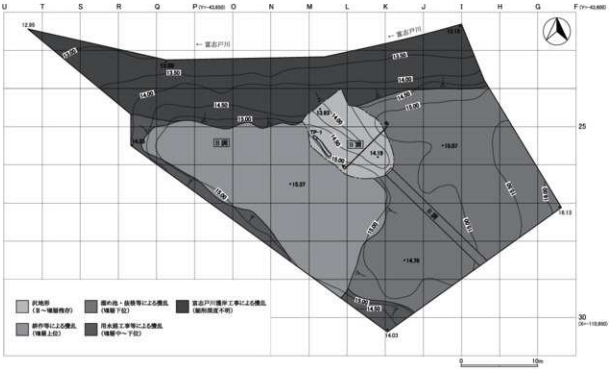
遺跡は長沼町市街より東南東へ約2㎞に位置し、富志戸川左岸の低位の段丘上に立地する。調査範囲の大半は護岸工事、耕作、溜池の掘削などによる攪乱を受けている。本遺跡は、昭和45（1970）年6月に長沼町教育委員会により富志戸川堰堤建設に伴う緊急発掘調査が行われている。南東約350ｍには、縄文時代後期後葉の赤彩された異形環状土器が出土したことで有名な12区Ｂ遺跡がある。

基本層序はⅠ層：客土・耕作土、Ⅱ層：表土、Ⅲ層：樽前ｂテフラ（Ta-b：1667年降下）、Ⅳ層：黒褐色土、Ⅴ層：黒色土、Ⅵ層：暗褐色土、Ⅶ層：漸移層、Ⅷ層：黄褐色ローム質土で、遺物は主にⅤ・Ⅵ層より出土した。富志戸川へ向かう沢地形が検出され、その内部では遺物包含層が良好に残存していた。

遺構と遺物

遺構は沢地形内でＴピット１基（TP-1）を検出した。長軸長3.5ｍを測る溝状で、坑底面に段が見られるが、逆茂木痕は確認されなかった。遺物は、土器・石器等約900点が出土した。土器は縄文時代前～後期のものがあり、特に中期末葉の北筒式が多い。石器等は、石鏃、石錐、スクレイパー、磨製石斧、たたき石、くぼみ石、砥石、石製品、剥片、礫等がある。

遺跡の位置


U
T
S
R
Q
P
O
N
M
L
K
J
I
H
G
F
25
30
← 雷志戸川
← 雷志戸川
13.85
13.3
13.3
13.3
14.3
14.3
14

厚真町　鯉沼２遺跡（Ｊ-13-68）

事 業 名：勇払東部（二期）地区厚幌導水路工事用地内埋蔵文化財発掘調査
委 託 者：国土交通省北海道開発局室蘭開発建設部
所 在 地：勇払郡厚真町字鯉沼160-1、160-3、161-1
調査面積：1,971㎡
調査期間：平成30年６月５日～７月12日
調 査 員：村田　大、立田　理

調査の概要

遺跡は、厚真川支流の軽舞川へ注ぐ小河川、鯉沼川の源頭部付近の台地上に立地する。鯉沼川は厚真川に流入するいくつかの支流のうち、左岸では最も南に位置している。調査前の現況は畑地であった。遺跡周辺は、畑地の造成工事によって広範囲に平坦化されている。調査区は東西の低位部分のみに遺物包含層である黒色土が残存し、中央付近は遺構確認調査範囲となっていた。

基本土層は、過去の厚真町内の調査に準じている。Ⅰ層：表土・耕作土および畑地の造成土を一括した層、Ⅱ層：樽前ｂテフラ、Ⅲ層：黒色土、Ⅳ層：樽前ｃテフラ、Ⅴ層：黒褐色土、Ⅵ層：漸移層、Ⅶ層：樽前ｄテフラの再堆積層（ここでは未確認）、Ⅷ層：樽前ｄテフラ（Ⅵ層で橙色粒子がわずかにみられる程度、ここでは未確認）、Ⅸ層：支笏第１テフラおよびそれ以下の層を一括した層である。

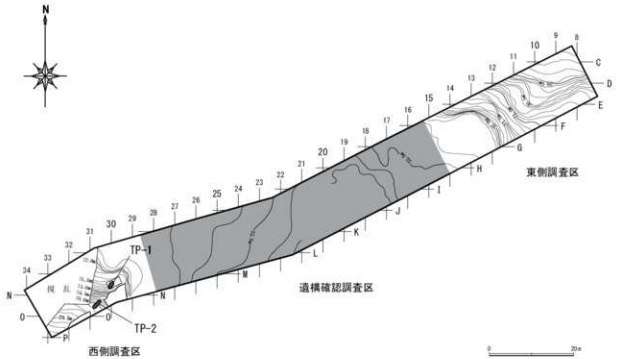
遺構と遺物

検出した遺構は、Ｔピット２基である。いずれも西側調査区から見つかった。平面形が溝状を呈する細長いタイプで、標高30ｍ付近の沢状地形の中にあり、流下線方向と遺構の長軸は平行する。時期は不明。

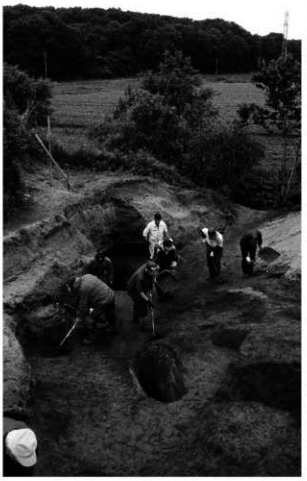
遺物は、縄文時代早期後半の土器片と石鏃等が数点出土している。

遺跡の位置

基本土層



遺構位置図



調査状況

Tピット調査状況

遺構確認調査状況

浦河町（うらかわちょう）

事 業 名：上向別浦河（停）線交付金工事に伴う埋蔵文化財調査

委 託 者：北海道胆振総合振興局

調査期間：平成30年5月7日～10月31日

調 査 員：中山昭大、菊池慈人、末光正卓、三浦正人

本事業は、津波等の災害時に浸水が予想される国道235・236号の代替路線となる道道を建設するもので、日高振興局（支庁）等の行政拠点へのアクセスを確保する目的がある。現在、常盤町から東町までの「まきばトンネル」（平成17年完成）付近が完成している。工事予定地内には、向別遺跡、栄丘遺跡、昌平町遺跡、常盤町遺跡がある。

基本土層は、これまで行われた浦河町内の調査事例を参考にして次のとおりに表記した。

基本土層

Ⅰ層：黒色土層で、現地表土はⅠ'層として区別した。主たる遺物包含層である。

Ⅱ層：黒の色調に近い漸移層で、遺物包含層である。

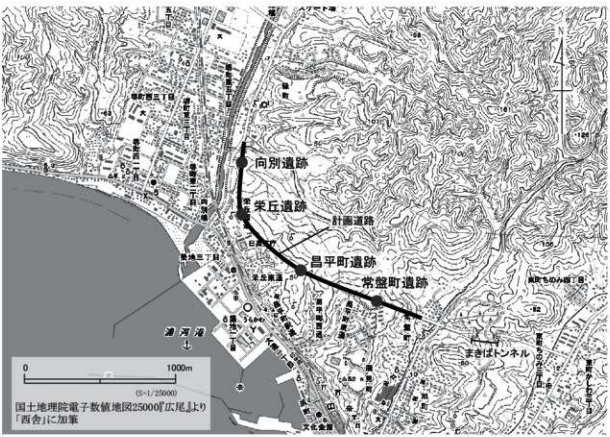
Ⅲ層：地山に近い漸移層で、色調から黄色（Y層）と橙色（OR層）に分けた。

Ⅳ層：凝灰岩が風化し土壌化した灰白色の層で、地山である。

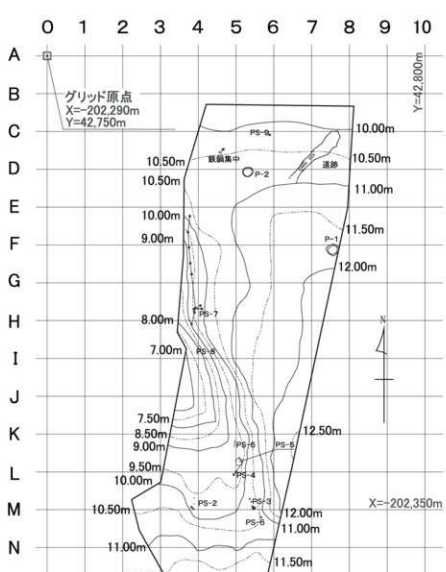
向別（むこうべつ）遺跡（K-07-27）

所 在 地：浦河郡浦河町緑町4-6、5-2

調査面積：2,400㎡



遺跡の位置



向別遺跡　遺構位置図・Ⅲ，Ⅳ層上面地形測量図（1:500）

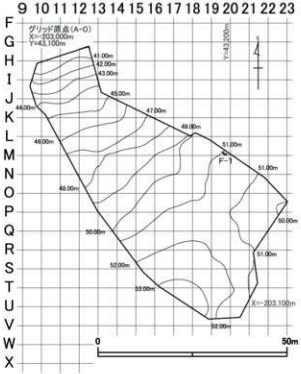
調査の概要

遺跡はＪＲ日高本線の浦河駅から北北西へ直線距離で約950ｍ、向別川下流の左岸の標高約10ｍの段丘に立地する。かつては牧場であり、深さ３ｍの沢を埋めた厚い盛土と地山まで削平された造成跡がみられた。この盛土から多くの遺物が出土した。

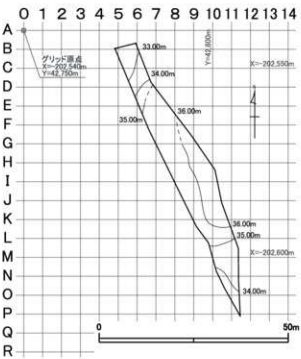
遺構と遺物

遺構は土坑２基、土器集中９か所、鉄鍋集中１か所、道跡１条がみつかった。土坑は円形で北側に位置し、擦文土器が出土した。土器集中は、縄文時代後期のタブコブ式の深鉢（ＰＳ－３）や擦文文化期後期の甕（ＰＳ－１・２・５・８・９）があり、須恵器（ＰＳ－４）、土師器（ＰＳ－７）、陶磁器（ＰＳ－６）もみられた。ＰＳ－３・４は坏身で、前者には回転糸切り痕があり、ＰＳ－６は外観の特徴から同期の須恵器甕と考えられる。鉄鍋は内耳である。道跡は調査区の北東方向へと続く現地表土の落ち込みで、現代のものと判断される。

土器は約1,600点で擦文文化期が最も多く、縄文時代早期・中期・後期の他、続縄文時代のものもある。石器は約4,600点で、剥片石器は石鏃、石槍・ナイフ、石錐、つまみ付きナイフ、礫石器は磨製石斧、



昌平町遺跡　Ⅲ，Ⅳ層上面地形測量図（1:1000）



栄丘遺跡　Ⅲ，Ⅳ層上面地形測量図（1:1000）

たたき石、すり石、石錘、砥石、台石が出土した。また、この地域で産出されるアンモナイトの化石も出土し、遺跡に持ち込まれたと推測される。

栄丘遺跡（K-07-23）

所　在　地：浦河郡浦河町緑町177-１・４、192、194-２

調査面積：800㎡

調査の概要

遺跡はＪＲ日高本線の浦河駅から北北西に直線距離で750ｍ、浦河港から向別川を望む標高35ｍの山の東から南縁の斜面に立地する。また、山裾部に位置する日高振興局（日高支庁）の場所も「栄丘遺跡」で、昭和58（1983）年度に当センターが3,000㎡を調査した（北埋調報16）。同じ名称が付されているが、本年度の調査地点と約200ｍ離れており、立地も異なるので、同一遺跡ではない可能性がある。

遺構と遺物

黒曜石の石鏃とフレイクが出土した。

昌平町遺跡（K-07-58）

所　在　地：浦河郡浦河町昌平町73-８、10、12

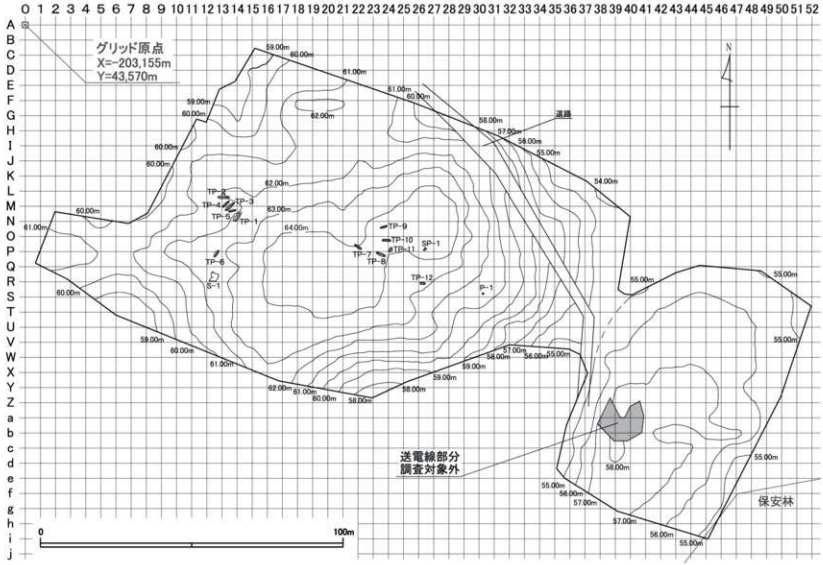
調査面積：3,179㎡（当初予定3,200㎡）

調査の概要

遺跡はＪＲ日高本線の浦河駅から北東に直線距離で約300ｍ、標高約50～41ｍの斜面に立地する。

遺構と遺物

Ｆ-１は掘り込みに焼土がみられた。土器は10点、石器は14点出土した。土器は縄文時代中期後半で、剝片石器はすべて黒曜石で、石鏃、スクレイパー、フレイクである。



常盤町遺跡　遺構位置図・Ⅲ，Ⅳ層上面地形測量図（1:1250）

常盤町遺跡（K-07-57）

所 在 地：浦河郡浦河町昌平町103-２、104-３、105、105-２、常盤町130-３、131-２、133-３、170-２、229-２、242

調査面積：18,121㎡（当初予定20,000㎡）

調査の概要

遺跡はＪＲ日高本線の浦河駅から東方向に直線距離で約700ｍ、標高約50～41ｍの斜面に立地し、遺跡は字昌平町と常盤町に広がっている。かつては牧場であり、東側部分は顕著に土の削平や盛土がみられた。

遺構と遺物

遺構は土坑１基、Ｔピット12基、土器集中１か所、礫集中１か所を調査した。土坑Ｐ-１は円形で浅い。Ｔピットは、TP-11・12が長楕円形で、他の10基は溝状である。TP-１～５、７～11はまとまってみられた。土器集中PS-１の土器は無文で縄文時代早期と推定している。礫集中Ｓ-１からは石錘が多く出土した。

遺物は土器40点、石器331点である。包含層から続縄文時代の土器が出土し、石器は石鏃、つまみ付きナイフ、スクレイパー、磨製石斧、たたき石、すり石、石錘、砥石、台石が出土し、花崗岩や片麻岩製の石錘が多い。

向別遺跡　調査状況

向別遺跡　土器出土状況

向別遺跡　須恵器出土状況

栄丘遺跡　調査状況

昌平町遺跡　調査状況

常盤町遺跡　調査状況

根室市　別当賀一番沢川遺跡（N-01-154）

事 業 名：根室防雪事業改良等工事に伴う埋蔵文化財発掘調査

委 託 者：国土交通省北海道開発局釧路開発建設部

所 在 地：根室市酪陽7-3外

調査面積：195㎡

調査期間：平成30年6月5日～6月28日

調 査 員：影浦　覚、広田良成

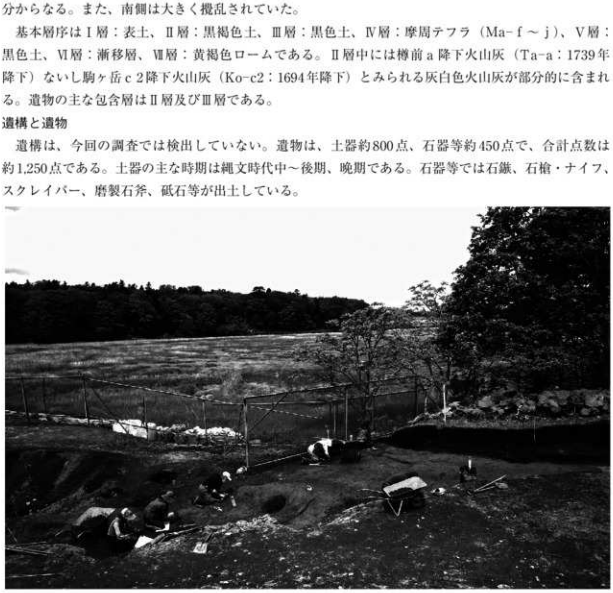
遺跡の概要

遺跡は、根室市街地から南西約17㎞に位置し、標高は約３～５ｍ、風蓮湖に注ぐ別当賀川の右岸の緩斜面上に立地している。当センターでは平成27・28年度にも調査を行っており、今年で３か年目となる。また、昭和60（1985）年には市道改良工事に伴い、根室市教育委員会により発掘調査が行われている。これらの過去の調査では、主に縄文時代中～後期の竪穴住居跡、土坑等の遺構、遺物が確認されている。今回の調査範囲は、平成27年度調査範囲に隣接しており、北東側の緩斜面と南西側の崖部分からなる。また、南側は大きく攪乱されていた。

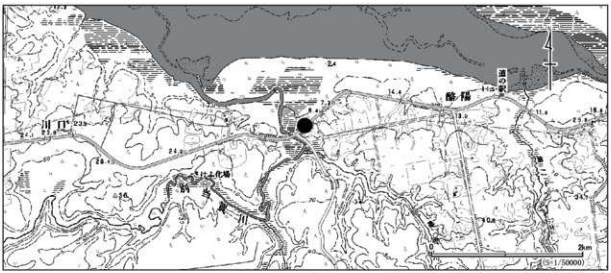
基本層序はⅠ層：表土、Ⅱ層：黒褐色土、Ⅲ層：黒色土、Ⅳ層：摩周テフラ（Ma-ｆ～ｊ）、Ⅴ層：黒色土、Ⅵ層：漸移層、Ⅶ層：黄褐色ロームである。Ⅱ層中には樽前ａ降下火山灰（Ta-a：1739年降下）ないし駒ヶ岳ｃ２降下火山灰（Ko-c2：1694年降下）とみられる灰白色火山灰が部分的に含まれる。遺物の主な包含層はⅡ層及びⅢ層である。

遺構と遺物

遺構は、今回の調査では検出していない。遺物は、土器約800点、石器等約450点で、合計点数は約1,250点である。土器の主な時期は縄文時代中～後期、晩期である。石器等では石鏃、石槍・ナイフ、スクレイパー、磨製石斧、砥石等が出土している。

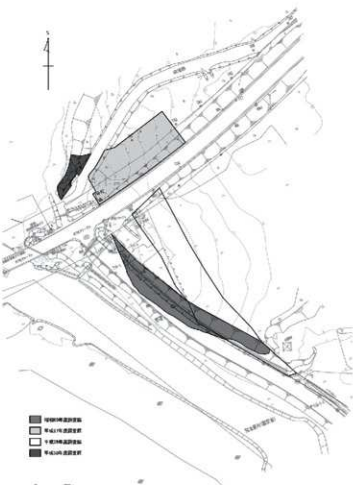


調査状況

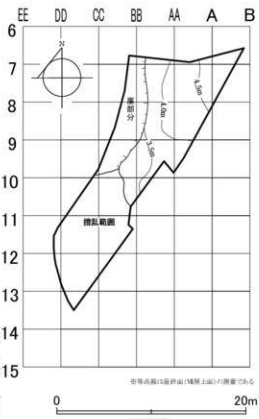


遺跡の位置

国土地理院の数値地図50000（地図画像）「北海道・1」（平成17年発行）を使用



調査区配置図



遺構位置図

根室市　トーサムポロ湖周辺竪穴群（N-01-1）

事 業 名：根室半島線（B交-638）交付金工事に伴う埋蔵文化財発掘調査

委 託 者：北海道釧路総合振興局

所 在 地：根室市豊里43-1外

調査面積：395㎡

調査期間：平成30年８月２日～10月26日

調 査 員：広田良成、立田　理

調査の概要

遺跡は根室半島突端の納沙布（のさっぷ）岬から西に約５km、オホーツク海に面するトーサムポロ湖周辺に位置する竪穴群である。トーサムポロ湖は北側に湖口がある周囲延長3.3kmの汽水湖で、周囲の標高約５～30ｍの台地には縄文時代早期からオホーツク文化期、擦文文化期の竪穴が2,000か所以上存在するとみられる。本遺跡は古くから知られており、昭和39年以降北構保男氏、東京教育大学（現筑波大学）、北地文化研究会等により竪穴分布調査や縄文時代前期・縄文時代晩期・オホーツク文化期の竪穴住居跡等の発掘調査が行われている。今回の調査は道道根室半島線の改良工事に伴うもので、当センターでは平成21～23、26年度にも調査を行っており、５か年目の調査となる。

今年度の調査区はトーサムポロ湖口に東西から突き出た半島状の段丘上に立地し、過去の調査でＡ地区と呼称した場所で、平成22・23年度調査範囲に隣接し、南東側と北西側の２か所に分かれる。

基本層序は０層：表土、Ⅰ層：黒色土、Ⅱ層：灰白色火山灰を含む黒褐色土、Ⅲ層：黒色土、Ⅳ層：摩周テフラ（Ma-ｉ・ｊ）、Ⅴ層：黒色土、Ⅵ層：黄褐色ロームである。Ⅱ層中の灰白色火山灰は部分的に上下２枚に分かれ、上位は樽前ａテフラ（1739年降下）、下位は駒ヶ岳ｃ$_2$テフラ（1694年降下）とみられる。遺構・遺物はⅠ～Ⅲ・Ⅴ層から検出している。

遺構と遺物

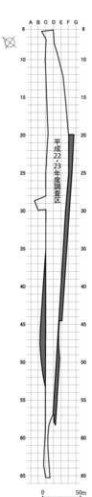
遺構は貝塚７か所（SM-2・7・8・11・18～20）、平地住居跡１軒（AH-1）、竪穴住居跡３軒（LH-1・2・5）、土坑９基（P-13・139～145、AP-1）、柱穴・杭穴24基、焼土２か所（F-11・12）、灰集中２か所（A-11・12）、集石１か所（S-9）、剥片集中１か所（FC-10・11）である。貝塚、平地住居跡、竪穴住居跡には平成22・23年度調査の遺構の続きを行ったものが含まれる。遺構の時期は、アイヌ文化期では貝塚、土坑、灰集中、焼土、オホーツク文化期では土坑、縄文時代では竪穴住居跡、土坑等がある。アイヌ文化期の大型貝塚（SM-2）では、貝層中で樽前ａテフラ、貝層下で駒ヶ岳ｃ$_2$テフラを面的に確認した。貝層は２枚の火山灰の間と樽前ａテフラの上位に分かれるため、1694年から1739年の間に形成された貝層と、1739年以降の貝層の２時期あることが判明した。

遺物は土器が約1,000点、石器等が約3,500点、金属製品約50点で、他に骨角器等が少量出土した。また、貝塚からは貝殻・獣骨・魚骨等の動物遺存体が出土している。土器では縄文時代早期～晩期のもの、オホーツク式土器、擦文土器が出土し、この中では縄文時代早期、晩期のものが多い。石器等では石鏃、つまみ付きナイフ、スクレイパー、砥石等が出土している。また、Ⅴ層から石刃鏃、彫器が出土している。

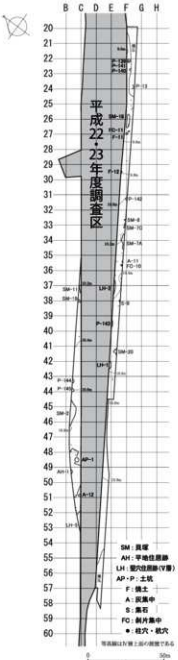
遺跡位置図　国土地理院の数値地図1：20万『日本-1』（平成20年）を使用

調査状況

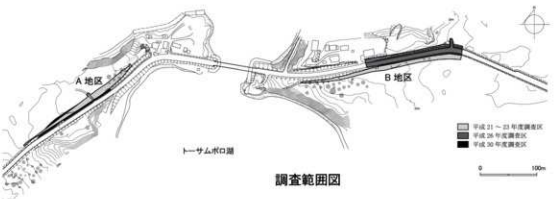
貝塚（SM-2）調査状況



A 地区調査範囲図



遺構位置図



調査範囲図

斜里町（しゃりちょう） カモイベツ遺跡（Ⅰ-08-30）

事 業 名：一般国道334号斜里町日の出事故対策事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

委 託 者：国土交通省北海道開発局網走開発建設部

所 在 地：斜里郡斜里町峰浜311、312

調査面積：1,695㎡

調査期間：平成30年５月15日～10月18日

調 査 員：笠原　興、阿部明義、直江康雄

調査の概要

遺跡は斜里市街地の約10km東に位置する。知床半島の基部、斜里平野の東縁部にあたり、オホーツク海沿岸の海岸砂丘上に立地する。南東には標高1419ｍの海別岳の裾野が広がり、ウナベツ川・シマトッカリ川他が流下する。周辺には多くの遺跡があり、南南西5.5kmには道指定史跡「朱円周堤墓群」が位置する。今回の調査は、世界遺産「知床」に通じる国道334号の改良工事に伴う調査として、現国道の北側（海側）、幅４ｍ前後・延長420ｍの細長い範囲を調査区とする。オホーツク海から100ｍ前後の位置で並行し、旧河川ないし潟湖に面した後背湿地を含む標高３～５ｍの砂丘上にある。

当遺跡では、これまでに2008・2009・2011・2012年の４次にわたり斜里町教育委員会が発掘調査を実施しており、続縄文時代宇津内Ⅱ式期・後北C_2D式期とオホーツク文化刻文期を主体とする集落跡・遺物包含層が確認された。主な遺構は、竪穴住居跡18軒（縄文晩期２・続縄文３・オホーツク13）、土坑墓４基（続縄文３・オホーツク１）の他、土坑・柱穴列・焼土・石組炉・集石・ベンガラ散布範囲等である。遺物は土器（縄文中期～晩期、続縄文宇津内Ⅱａ・Ⅱｂ式および後北C_2D式、鈴谷式、オホーツク刻文）・石器等の他、硬質頁岩の平玉やガラス玉といった装飾品、杭等の木製品も少数出土している。

また今回の調査に先立ち、2017年にドローンを活用した予備的な測量調査を実施したところ、砂採取等の撹乱によるくぼみとは別に調査区西部で多角形を呈するくぼみが確認でき、複数の竪穴住居跡等の遺構が検出されることが見込まれていた。

2018年の調査は、調査区が細長いことや排土の都合などから４回に分け、さらに分割して調査を行った。過年度の調査結果から、第１～３回目はⅥ層（摩周b5降下軽石層）上面までを重機により除去し、Ⅶ層を調査対象とした。遺物を包含するⅦａ層・Ⅶｂ層は手掘り、間層（Ⅶ層）はスコップを併用し、トレンチ調査の状況からⅦｂ層下面を最終掘削面とした。第３回目後半でⅥ層以下が礫層に移行し遺物が出土しない一方、Ⅱ層相当の土壌から貝が出土したことから近世貝塚を想定し、第４回目はⅡ層上面までを重機により除去し樽前ａ火山灰の面までを調査対象とした。遺物の取り上げは、地点計測と４ｍ毎の発掘区単位を併用した。遺構の一部の土壌についてフローテーション作業を行った。

基本土層（2018年）は以下の通りである。

Ⅰ層：表土～近年の砂丘等。

Ⅱ層：暗褐色砂壌土‥‥層中に樽前ａ（1739年降下）および駒ヶ岳c2（1694年降下）火山灰を含む。

Ⅲ層：褐色泥炭、Ⅳ層：摩周火山灰（摩周テフラの一部）、Ⅴ層：黒褐色砂層。

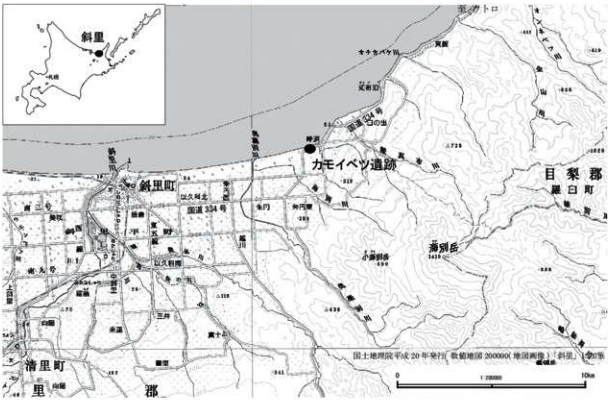
Ⅵ層：摩周b5降下軽石層（10世紀ころ）‥‥明瞭な鍵層。調査区全域に10～15cm堆積する。

Ⅶ層：砂層‥‥黄褐色砂と黒褐色砂の互層。

Ⅶａ層：Ⅵ層下の黒褐色砂層。オホーツク文化期の遺物を含む。

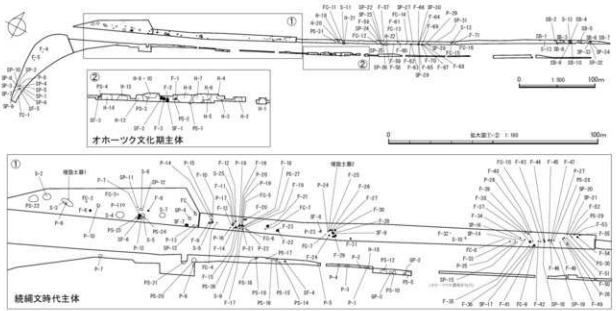
Ⅶｂ層：黄褐色砂層間にある黒褐色砂の薄層。続縄文時代後半期の遺物を含む。

Ⅷ層：砂層‥‥青灰色砂・黄褐色砂。無遺物。



遺跡位置図

年度別発掘調査区域図



全体遺構分布図

遺構と遺物

調査の結果、続縄文時代後半とオホーツク文化期の中頃、そして近世アイヌ文化期の遺構・遺物を検出した。遺物は約18,600点出土した（自然遺物除く）。

続縄文時代では、過年度調査区に引き続き海浜付近にまで多くの遺物が広がっていた。オホーツク文化期では、過年度の調査で見つかった砂丘列内の集落跡の一端にあたるとみられる。刻文期の集落構造を理解する上で考慮すべき特徴的な遺構を検出した。アイヌ文化期では、隣接・周辺コタンに関連した海浜部での捨て場・送り場としての利用が考えられる。

【続縄文時代】

調査区西部（斜里側）～中央部にかけてのⅦb層で、後北C_2D式期の住居跡１軒、土坑１基、柱穴状小土坑10基、焼土16か所、剝片・砕片集中５か所を検出した。なお調査区中央部～東部方面は徐々に標高を下げ３m以下となり、礫浜が広がり遺物は皆無であった。

遺物出土状況の特徴として、焼土と大小の礫を中心とし黒曜石の微細な剝片や土器片（後北C_2D式）等が広い範囲から出土するという傾向にある。また時折一個体や半個体のまとまった土器が出土している。

焼土は標高４m前後の砂丘肩部付近に列するものが多い。径50～100cm・被熱層の厚さ５～10cmほどの規模で、上面に微細な骨片を含み周囲に炭化木片が散在するものがある。「住居跡」としたものは、掘り込みはなく４mほどの範囲に焼土と柱穴状小土坑がみられる。

【オホーツク文化期】

調査区西部（斜里側）のⅦa層で、刻文期の竪穴３軒、集石土坑１基、集石２か所、剝片集中１か所を検出した。なお調査区中央部は集石１か所とわずかな遺物が出土するのみで、調査区東部方面は徐々に標高を下げ、礫浜が広がり遺物は皆無であった。

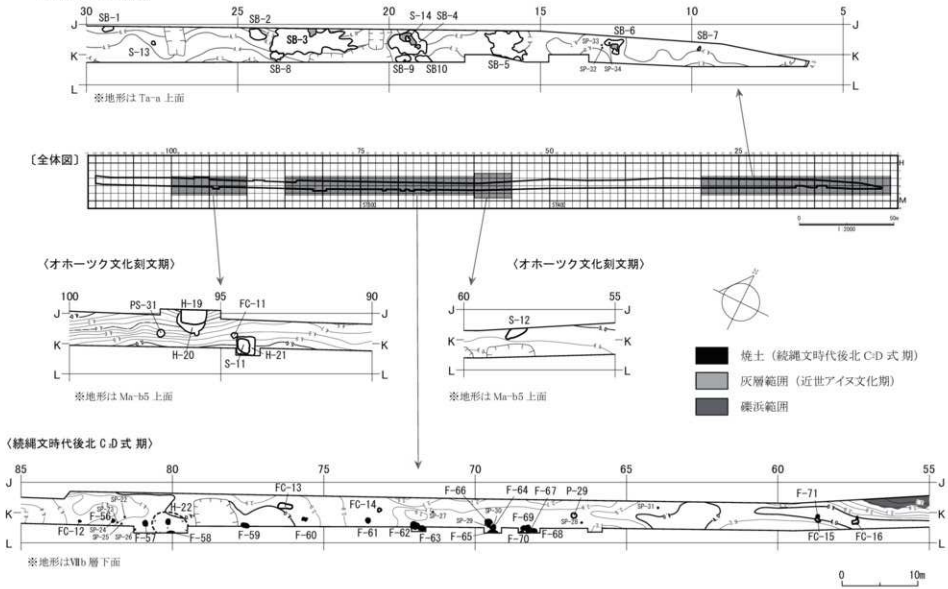
今回特筆すべき遺構として、刻文期の検出例が少ない「小型竪穴」が挙げられる。典型的な大型多角形の竪穴住居跡と異なり、径2.2～3.1mの方形（１軒は多角形）である。貼り床・溝・柱穴・祭壇跡などの施設を欠くが、方形に配された石組炉が明瞭にみられる（１軒除く）。竪穴１軒（H-21）の覆土には上層遺構として集石があり、刻文土器が出土している。集石土坑は円形土坑に一部油脂の付着した焼け礫が密に詰まっており、坑底には太い燃焼材が残存する。

【近世アイヌ文化期】

調査区東部（ウトロ側）のⅡ層、樽前ａ火山灰より上位において、貝・骨ブロック10か所、柱穴状小土坑３基、集石２か所を検出した。

貝・骨ブロックは、Ⅱ層中の樽前ａ火山灰より上位にあり、面的に薄く広がる。ただし一部は灰層を伴い、魚骨を主体に最大10cm程度の厚みがあった。貝はビノスガイ・ウバガイ（ホッキ）を主体とし、ホタテガイ、サラガイ（白貝）等扁平な二枚貝の他巻貝も少数みられ、現在の峰浜海岸に打ちあがる貝殻の構成に近似する。魚骨はサケ科を主体にヒラメ・カレイ類、カサゴ類他、獣骨はシカ・犬等の陸獣やアザラシ等の海獣類が少数確認できる。

遺物は、金属製品では鉄鍋（攪乱出土）・鎌・斧・刀子・釘類、銅製（または真鍮）の環状製品等が出土している。骨角器では、銛先（２点のうち１点は銅製槍先基部が残る）、刺突具、その他獣骨加工品などがある。また樹皮が複数出土しており、灯火用素材の可能性がある。その他、いわゆる「棒状礫」の集石が貝・骨ブロックの内外から２か所検出されており、立地から魚網の錘石等の利用が考えられる。



2018 年調査区遺構位置図

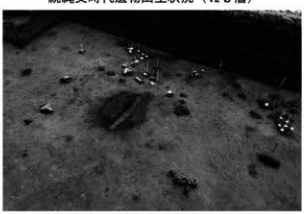
調査状況（Ⅶａ層）

オホーツク文化期の小型竪穴（Ⅶａ層）

オホーツク文化期の集石土坑（Ⅶa層）

続縄文時代遺物出土状況（Ⅶb層）

続縄文土器出土状況（Ⅶa層）

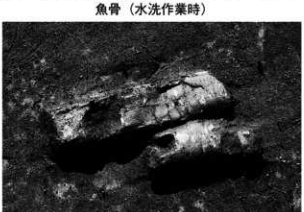


炉・柱穴・遺物（「住居跡」Ⅶb層）

アイヌ文化期の貝・骨ブロック（Ⅱ層）

魚骨（水洗作業時）

鎌（Ⅱ層）



樹皮（Ⅱ層）

4　協力活動及び研修（平成30年１月～12月）

（１）協力活動

ア　発掘現場見学

＊木古内町　幸連５遺跡
　６月28日　木古内町文化財審議委員発掘調査現場見学（７名）
＊木古内町　幸連５遺跡
　７月19日　木古内ゼミナール発掘調査現場見学（14名）
＊木古内町　幸連５遺跡
　７月23日　木古内小学校５・６年生体験発掘（51名）
＊木古内町　幸連５遺跡
　７月31日　木古内町　無名塾　体験発掘（12名）
＊木古内町　幸連５遺跡
　８月29日　木古内町教育委員現場見学（８名）
＊根 室 市　トーサムポロ湖周辺竪穴群
　８月31日　北海道大学アイヌ・先住民研究センター発掘調査現場見学（５名）
＊斜 里 町　カモイベツ遺跡
　９月25日　斜里高等学校体験発掘（41名）
＊木古内町　幸連５遺跡
　10月17日　森町ストーンサークル研究会現場見学（８名）

イ　委員会等の会議

＊文 化 庁
　２月28日～３月２日　文化審議会文化財分科会第一専門調査会（東京都台東区　長沼）
＊全国埋蔵文化財法人連絡協議会
　６月13日・14日　第39回全国埋蔵文化財法人連絡協議会総会
　　（兵庫県神戸市　中田・田口・小杉・立野）
　10月18日・19日　平成30年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会北海道東北地区会議
　　（岩手県盛岡市　山田・成田・小杉）
　11月29日・30日　平成30年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会第２回役員会
　　（東京都多摩市　山田・成田）
＊全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会
　５月30日～６月１日　平成30年度全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会総会
　　（広島県広島市　山田・作田）
　９月20日・21日　全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会北海道・東北ブロック会議
　　（青森県青森市　山田・長沼・成田・葛西）
＊洞爺湖町教育委員会
　９月25日・26日　国指定史跡入江・高砂貝塚保存整備委員会（洞爺湖町　長沼）

ウ　調査指導・研究協力及び講演会等の講師

＊熊本大学
　11月２日～４日　文部科学省科学研究費補助金による「軟X線・X線CTを用いた栽培植物・家屋害虫のタフォノミーと縄文人の心象の解明」研究会講師（鹿児島国分市　影浦・福井）
＊北海道教育大学
　12月26日　「子供と社会教育」講師（札幌市　倉橋）
＊明治大学
　２月18日・19日　文部科学省科学研究費補助金による「東太平洋沿岸地域の歴史・考古学的総合研究」科学研究
　　市民向け報告会・考古学分野古代貝塚集成に関する打ち合わせ
　　（岩手県　大船渡市　福井）
　３月10日・11日　文部科学省科学研究費補助金による「東太平洋沿岸地域の歴史・考古学的総合研究」考古学分野古代貝塚・集落集成グループの合同会議（東京都千代田区　福井・佐藤）

＊札幌学院大学
11月30日　「人文地理学概説」講師（江別市　倉橋）
＊八戸市埋蔵文化財センター
2月3日　平成29年度後期是川縄文館考古学講座講師（青森県八戸市　阿部）
8月25日　「海をわたる縄文人～津軽海峡文化圏の縄文～」展講師（青森県八戸市　長沼）
＊福島町教育委員会
1月25日　平成29年度歴史文化講演会講師（福島町　長沼）
＊木古内町教育委員会
10月17日　木古内町郷土学習講座講師（木古内町　福井）
＊苫小牧市美術博物館
2月17日　美術博物館大学講師（苫小牧市　福井）
＊千歳市教育委員会
8月4日　文化財普及啓発事業体験学習会講師（千歳市　直江）
＊北広島市教育委員会
エコミュージアム普及推進事業「まちを好きになる市民大学」
10月20日　「歴史遺産特講」（歴史遺産研究）講師（北広島市　藤井）
10月27日　「歴史遺産特講」（調査実習）講師（北広島市　藤井）
12月6日　「エコミュージアム資料論」（考古学資料論）講師（北広島市　藤井）
12月1日　「歴史遺産報告会」（北広島市　藤井）
＊様似町教育委員会
8月3～6日　冬嶋遺跡発掘調査指導（様似町　坂本）
＊枝幸町教育委員会
11月9日～12日　歌登山洞穴学術調査簡易測量調査指導（枝幸町　福井）
＊紋別市教育委員会
8月18日　第26回環オホーツク海文化のつどい講師（紋別市　田口）
＊江別市内中学校・高等学校教頭連絡会
1月19日　平成29年度江別市内中学校・高等学校教頭連絡会講師（江別市　長沼）
＊特定非営利活動法人ゆめの種子トーベッ
5月26日　当別町遺跡ツアー　講師（当別町　鎌田）
＊南北海道考古学情報交換会
12月1日・2日　第39回南北海道考古学情報交換会講師（上ノ国町　福井）

（2）研修
ア　外部研修
＊文化庁
1月31日～2月2日　平成29年度第2回埋蔵文化財担当職員等講習会
（福岡県福岡市　村田・鈴木（宏）・末光・広田）
8月29日～8月31日　平成30年度第1回埋蔵文化財担当職員等講習会
（岩手県釜石市　今本・葛西・芝田）
＊独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所
12月20日　平成30年度第3回報告書データベース作成に関する説明会（石川県金沢市　長沼・倉橋）
＊全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会
10月18・19日　全国埋蔵文化財センター連絡協議会第31回研修会（愛知県名古屋市　倉橋）
＊全国埋蔵文化財法人連絡協議会
10月25・26日　平成30年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会（千葉県千葉市　袖岡・三浦（忠））
＊北海道教育委員会
1月26日　平成29年度アイヌ文化財専門職員等研修会
（札幌市　田口・鎌田・笠原・村田・芝田・冨永・佐藤・酒井・山中・立田）

イ　内部研修
＊平成30年度発掘調査報告会
12月12日（センター研修室）

5　平成30年度刊行報告書

第351集『伊達市　西関内3遺跡』
滝之町伊達線防災・安全交付金工事用地埋蔵文化財発掘調査報告書

第352集『白老町　ポロト3遺跡』
国立民族共生公園整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

第353集『木古内町　札苅5遺跡（2）』
高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査（幸連5遺跡外）報告書

第354集『根室市　温根沼2遺跡』
一般国道44号根室市温根沼改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

第355集『根室市　別当賀一番沢川遺跡』
根室防雪事業改良等工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

第356集『厚真町　オコッコ1遺跡（2）』
勇払東部（二期）地区厚幌導水路工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書

第357集『厚真町　厚幌2遺跡』
勇払東部（二期）地区厚幌導水路工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書

第358集『厚真町　鯉沼2遺跡』
勇払東部（二期）地区厚幌導水路工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書

第359集『長沼町　12区C遺跡』
道央圏連絡道路長沼南幌道路工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書

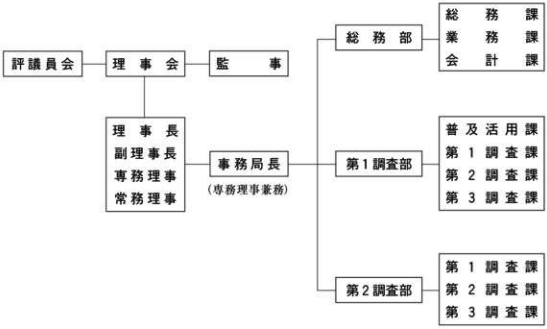
6　組織・機構

役　　員（平成30年6月22日現在）

理事長	越田賢一郎
副理事長	中田　仁
専務理事	山田寿雄
常務理事	長沼　孝
理事	臼杵　勲
理事	片岡　晃
理事	菊池俊彦
理事	関口　明
理事	本田優子
理事	山田悟郎
理事	和田基興
監事	佐藤一夫
監事	坂本　均

評議員（平成30年6月22日現在）

評議員	遠藤龍祐
評議員	川上　淳
評議員	木村方一
評議員	昌子守彦
評議員	千葉英一
評議員	鵜丸俊明
評議員	西　幸隆
評議員	古谷雅幸
評議員	巻渕雄二
評議員	三原和廣
評議員	山田　享
評議員	横山健彦



7　職　員（平成30年6月25日現在）

事務局長（兼務）　山田寿雄

総務部

総務部長	成田直彦	業務課長	小笠原　学
総務課長	小杉　充	主査	今本宏信
主任	葛西宏昭	主任	菅野　聡
参与	作田千秋	参与	立野賢次
参与	浅井真介	参与	三浦忠善
会計課長	中村貴志		
主任	磯田千秋		

第1調査部

第1調査部長（兼務）	長沼　孝
普及活用課長	田口　尚
主査	倉橋直孝
主査	坂本高史
主査	柳瀬由佳
第1調査課長	中山昭大
主査	菊池慈人
主査	末光正卓
主任	三浦正人
第2調査課長	土肥研晶
主査	冨永勝也
主査	大泰司　統
主査	福井淳一
主査	吉田裕史洋
主査	酒井秀治
第3調査課長	皆川洋一
主査	藤井　浩
主査	鈴木宏行
主査	山中文雄

第2調査部

第2調査部長	鈴木　信
第1調査課長	鎌田　望
主査	愛場和人
主査	芝田直人
主査	袖岡淳子
主査	佐藤　剛
第2調査課長	笠原　興
主査	影浦　覚
主査	阿部明義
主査	広田良成
主査	直江康雄
第3調査課長	村田　大
主査	新家水奈
主査	立田　理

調 査 年 報 31

平成30年度

平成31年3月15日発行

編集・発行　公益財団法人　北海道埋蔵文化財センター
〒069-0832 江別市西野幌685-1
TEL　011-386-3231・FAX 011-386-3238
URL http://www.domaibun.or.jp
E-mail mail@domaibun.or.jp
印　　刷　社会福祉法人 北海道リハビリー
〒061-1195 北広島市西の里507番地1
TEL　011-375-2116㈹・FAX 011-375-2115